

このまちを守りたい

【問い合わせ】 消防救急課 ☎24・91155 FAX24・91111

私たちが日々安心して生活ができるのは、日頃から地域の安全を守ってくれている人たちがいるからではないでしょうか。皆さんは、「消防団」をご存じですか。消防団という言葉は知っていても、どんなことをしているのか知らないという人もいるかもしれません。

今回は、私たちのまちの「消防団」について紹介します。

◆地域を知る消防団員は

地域防災の要

近年、地震や豪雨、土砂災害など、各地で大規模な自然災害が起こり、深刻な被害をもたらしています。

そのような中、火災や災害から地域を守るために活躍しているのが、市民の有志による消防機関である消防団です。

普段はそれぞれ自分の仕事に就いている団員たちも、いざ地元で災害が発生すれば現場に駆けつけ、消防署職員と共に市民の命と財産を守るため奔走します。

安全かつ迅速に消火や救助活動を行うためには、地元の地理や住民などについて詳しい情報が必要です。そのため、地域を知る消防団員がそれぞれの地域にいるということは大

きな意味があります。

◆日頃の訓練で非常時の備えを

消防団は、大きく3つの特性を持っています。

- ① **地域密着性**：団員が区域内に居住または勤務している
- ② **要員動員力**：多数の団員を動員することができる
- ③ **即時対応力**：日頃からの教育訓練により災害対応の技術・知識を習得している

これらの特性を生かして、さまざまな災害に対応し活動をしています。また、日頃の訓練に加えて、災害に備えた啓発活動を行っています。

私たちの暮らしの安全の裏側には消防団員の日々の地道な活動があるといえます。



《消防団の一年》

- 4月：辞令交付式・初任者訓練
- 6月：応急手当普及員講習
- 8月：夏期訓練
- 11月：火災予防週間にかかる啓発活動
- 12月：年末夜警巡視
- 1月：出初式
- 文化財防火デーにかかる訓練
- 3月：火災予防週間にかかる啓発活動
- 毎月：分団長会議・資機材点検



▲三重県内で唯一のラップ隊。花垣地区の消防団員で構成し、消防団の出初式や県内各地の式典などの行事で演奏を披露しています。

◆台風による被害の拡大を防いだ伊賀市消防団の活動を国が評価

2013（平成25）年9月、台風18号が上陸し、伊賀市では2日間にわたり、延べ1,617人の消防団員が出勤しました。強風と降り続く豪雨という極めて困難な状況のもと、団員たちは、避難所への市民の誘導や、土のうの積み上げ、防水シートの設置を行い、一人の人的被害も出ませんでした。

これらの活動が評価され、2014（平成26）年2月に防災功労者消防庁長官表彰を、5月に全国水防管理団

体連合会の水防功労者表彰を、9月に防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。

また、翌年の台風11号上陸の際も、2日間で延べ1,902人の団員が出勤し、その活動に対して防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しています。大型台風の上陸は市内各地にいくつもの爪跡を残しました。

しかし、災害の中、危険を省みず活動した伊賀市消防団が高く評価されたことは、私たち市民にとっても誇らしく心強いことだといえるのではないのでしょうか。

長年にわたり、消防団活動を続けられている福原団長にお話を伺いました。

伊賀市消防団長 福原 敏昭さん
（昭和52年入団）

幅広い活動が求められる消防団

消防団の活動内容は、消防署員が消火の際に放水で使う水の確保や残り火の処理といった現場での支援、豪雨の際の土のうの積み上げ、被災者の救出・救護、行方不明者の捜索など、幅広いものです。

全国的に大規模な災害が増える中、地域住民の命と財産を守るため消防団の果たす役割は重要なものとなっています。

課題は団員の確保

人口減少や高齢化によって団員が減る中、大きな課題は団員を確保することです。新たに入団し活動してもらいたいのはもちろんですが、その一方で退団した人にも支援団員として活動に参加してもらっています。

地元のために参加しようという支援団員は現在172人におよび、団員が駆けつけられないときの初期消火にあたるほか、長年の経験を生かして地域と消防団との間に立ち、橋渡しの役割も担ってもらっています。

地域を思う気持ちや育む場

消防団は何かと大変だと考える人は大勢いるかと思えます。しかし、消防団で育んだ仲間や地域とのつながりは貴重なものです。私自身は消

▼水防訓練において土のうを作る消防団員。このような日頃の地道な訓練が災害時に活かされています。



▲伊賀市消防団長の福原敏昭さん

防団の中で多くのことを教えていただき、地域の中で育ててもらったという気持ちを強く持っています。これらが次の世代を育てていくという思いにつながっています。

今後は防災にも重点を

伊賀は過去に大きな地震による被害を受けた地域であり、私たちはこの歴史を教訓に災害に備える必要があります。今後は防災の啓発活動にもさらに力を入れ、女性部と共に取り組んでいきたいと考えています。

《伊賀市消防団 各分団の団員数と管轄区域》※9月1日現在

分団名	団員数	管轄区域
団本部	19 (0)	伊賀市全域
上野中分団	156 (31)	車坂町・田端町・赤坂町・農人町・玄蕃町・寺町・伊予町・片原町・鍛冶町・新町・丸之内・西大手町・東町・中町・西町・向島町・魚町・小玉町・福居町・幸坂町・下幸坂町・相生町・紺屋町・三之西町・徳居町・茅町・池町・忍町・恵美須町・桑町・東日南町・西日南町・愛宕町・鉄砲町・万町（上野は省略） 平野上川原・平野北谷・平野蔵垣内・平野清水・平野城北町・平野中川原・平野西町・平野東町・平野樋之口・平野見能・平野山之下・平野六反田・服部町一～三丁目・緑ヶ丘東町・緑ヶ丘中町・緑ヶ丘本町・緑ヶ丘西町・緑ヶ丘南町・小田・久米
上野西分団	156 (20)	花之木・長田・花垣・古山
上野北分団	97 (13)	新居・三田・諏訪
上野東分団	120 (7)	府中・中瀬・友生
上野南分団	137 (7)	猪田・依那古・比自岐・神戸
伊賀分団	219 (5)	伊賀全域
島ヶ原分団	88 (9)	島ヶ原全域
阿山分団	172 (19)	阿山全域
大山田分団	133 (28)	大山田全域
青山分団	176 (34)	青山全域
合計	1473 (173)	

※団員数のカッコ内は、支援団員の人数
 ※団本部には、女性部の人数を含む。

◆伊賀市消防団は10の分団で構成しています

伊賀市消防団は、団本部と10分団で構成し、各分団には、分団長・副分団長・部長・班長・団員が所属しています。災害時は団幹部(団長1人・副団長3人)が総括し、各分団が分団長の指揮のもと救助や避難誘導などを行います。

◆多様な地域特性

山間部で水の確保が難しい場所や住宅の密集地など、地域によって環境もさまざまです。消火や救助活動などを行う際もそういった地域特性を考慮しなければいけません。現在、消防団では各分団で災害時

の対応マニュアル作りを進めています。

◆地域との連携が防災の鍵に

防災啓発はもちろん、災害時において、地域との協力体制をつくることは非常に重要です。そのため、消防団では、地域の行事へ参加したり、祭りの警備を行うなど、日頃から地域とのつながりを大切にしています。



▲火災現場で消火活動にあたる消防団員

◆伊賀市消防団女性部

2013（平成25）年に発足し、現在は15人で活動しています。活動内容は、普段は防火・防災の啓発、普通救命講習の指導、火災予防週間には高齢者宅防火訪問などを、また、大きな災害が起こったときは消防団の後方支援を行います。

◆団員同士の信頼のもと
 さまざまな活動をしています

女性部長 大北 薫さん
 (平成25年入団)
 防災の啓発活動の中で「防災は難しい」と敬遠する人もいますが、寸劇やゲームなどを通して楽しくわかりやすく伝えることで、防災の大切さを理解してもらえよう努めています。

今年で4年目を迎える女性部の活動も、当初はできることが少なく手探りの状態でした。しかし、団員たちが積極的に提案をして活動内容を充実させてきた結果、反響も大きくなり、今では地域から啓発活動



▲(右から)伊賀市消防団女性部の大北薫さんと住友美輝さん



▲女性部による防災啓発の様子

の訪問依頼をいただくことも多くなってきました。1人ではできないことも、お互いを信頼しながらここまで続けてこられたと感じています。今後も、防災の啓発活動を続けてさらに地域の防災意識の向上をめざしたいと思います。

◆女性部の活動がとっても楽しい！

女性部団員 住友 美輝さん
 (平成28年入団)

伊賀市消防団女性部団員の募集を知って、すぐに応募しました。啓発活動の寸劇などを通して女性部や地域の皆さんと交流できることが今一番楽しいと感じています。青山地域の女性消防団員は私だけなのですが、夏期訓練のときに地域の人から「地元には1人でもいてくれると心強い」と言っていただけたときはとても嬉しかったです。今後は、普通救命講習で指導を行うための資格を早く取得して、先輩たちと同じように活動できる団員になりたいと思っています。

伊賀市消防団 全国消防操法大会へ出場!!



◀大会に出場した選手たち
(左上から)
山根 光輝さん(上野東分団)
堀川 典章さん(上野中分団)
増岡 伸朗さん(島ヶ原分団)
川井 和人さん(青山分団)
岡本 貴嗣さん(上野北分団)
(左下から)
増田 貴臣さん(伊賀分団)
成瀬 義尚さん(大山田分団)
西田 方彦さん(阿山分団)
福井 崇智さん(上野西分団)
橋本 宏一さん(上野南分団)



▲火点と呼ばれる的を
めがけて放水する指
揮者の選手
▶操法開始のため整列
する選手たち



県内の12市町が参加する中、日頃の訓練成果を発揮した伊賀市消防団は、見事に1位を勝ち取りました。これにより、10月14日に長野県で開催される全国消防操法大会への出場が決定しました。

◆三重県消防操法大会で優勝
今年の7月16日、鈴鹿市の三重県消防学校で三重県消防操法大会が開催されました。
消防操法とは、消防訓練の基本的な器具操作や動作を行うもので、大会ではその敏速さや安全性、規律、放水までの所要時間が守られているかなどを審査します。

訓練に参加した選手の一人は、大会出場に向けて「全国へ出場できるのもいろんな人のおかげだと思います。やるからには精一杯がんばって少しでも良い知らせを持ち帰りたい。また先輩方から受け継いだ節度とスピード(静と動)を持った『伊賀流操法』に磨きをかけて全国の場で披露したいと思います。」と話しました。
こういった訓練の積み重ねや団員同士のつながりが、安全かつ迅速な消火活動を実現させ、市民の命や財産を守るといふ目的につながっているのではないのでしょうか。

◆全国大会出場に向けて
8月23日から全国大会に向けた訓練が週に3回、中消防署西分署で始まりました。



◀消防署員の指導のもと操法の訓練に励む選手たち

▶大会に出場する選手だけでなく、各分団の団員たちも参加し、訓練を手伝います。



～消防団員・女性部団員募集～

消防団でともにまちを守りませんか



現在、消防団員数は全国的に減少傾向にあり、本市でも団員の確保が難しくなっています。地域の防災力を保つためには、多くの消防団員が不可欠です。

消防団は、市民の皆さんの入団をお待ちしています。

《処遇など》

- 特別職の地方公務員
- 年報酬・出勤手当
- 公務員災害補償
- 退職報奨金 など

《申込先・問い合わせ》 消防本部消防救急課 ☎ 24-9115 FAX 24-9111

